

目 次

はじめに	i
目次	ii
1 章 総論		1
1. 1 円理の概略史	1
1. 2 円理に関する書名の整理	4
1. 3 主な伝系	6
1. 4 主な人物	6
2 章 円周率と円弧長の概略史		9
2. 1 円周率の数値の歴史	9
2. 2 円周率算出の二つの概略史	11
2. 3 円弧長算出の概略史	14
3 章 鎌田俊清と建部賢弘の円理		19
3. 1 鎌田俊清の円理	19
3. 2 建部賢弘の綴術算経	22
4 章 建部賢弘の円理弧背術		29
4. 1 建部賢弘の伝記	29
4. 2 円理弧背術の成立について 一誰の著か—	31
4. 3 建部賢弘の円理弧背術の解説	34
5 章 今井兼庭の円理弧背術		61
5. 1 今井兼庭の伝記	61
5. 2 今井兼庭の円理弧背術の解説	64
(コラム) 千葉歳胤が求めた円周率	98

6章 円理乾坤之卷	103
6.1 乾坤之卷について	103
6.2 円理発起	104
6.3 乾坤之卷(日本学士院)	113
6.4 弧背真術乾坤之卷(学習院大学)	124
6.5 戸板所伝円理乾坤之卷	137
6.6 弧背之理	147
7章 その他の資料	151
7.1 松永良弼の方円算経	151
7.2 久留島義太の久氏弧背術	157
7.3 中根彦循の弧背真術	162
7.4 間重富の弧背術	165
8章 弧背の求め方のまとめ	167
付録1 組立徐法の方法	173
付録2 細井滂著の円理論から	177
付録3 今井の円理弧背術の影印	185
付録4 円理関係の年譜	207
あとがき	208

~~~~~

凡例：

- ①右のような縦書の原文を本書では「次<sup>ニ</sup>容<sup>レ</sup>四斜<sup>一</sup>」と横書する。  
 ②原文の直訳・意識を示す場合は原則【   】で示す。

次<sup>ニ</sup>  
容<sup>レ</sup>  
四斜<sup>一</sup>

